

激ナル「ゲリラ」戦ヲ展開シ居ル處、右ニ關スル獨紙解説左ノ通ナリ。
 復活祭ノ日曜日初メテ、西部並ニ東部ノ被占領地ニ「ナチス」獨逸ノ自由闘争運動トシテ設立サレタ
 ル「ヴェンゲル」ノ國民ニ宛テタル解放送サレタリ。右運動ノ本部ハ、同「ラデオ」ヲ通ジ獨逸國民
 ニ呼掛ケ、被占領地ニ於ケル獨逸人男女ガ、敵ノ後方ニ在リテ我國民ノ自由ト名譽ノ爲ニ狂信的ニ戰
 ヒツツアルヲ強調セリ。「ヴェンゲル」運動本部ハ、「無殘ナル「テロ」爆撃ニ依リ破壊サレシ西部
 ノ町々、「ライン」河畔ノ饑餓ニ類シツツアル婦女子ハ、吾人ニ對敵憎惡ヲ植エ附ケタリ。敵占領
 地ニ於テ、打倒サレ、辱メラレ、或ハ殺戮セラレタル獨逸老幼男女ノ血ト涙トハ、復讐ニ熱狂シツ
 ツアリ。「ヴェンゲル」ニ凝集セラレタル者ハ、決シテ敵ニ屈スルコトナク、困難ナル情況、局限
 セラレタル手段ニモ拘ハラズ、抵抗ニ次グ抵抗ヲ以テシ、毅然トシテ死ヲモ恐レズ、我國民ニ加ヘ
 ラレタル凡ユル兇行ニ對シテ死ヲ以テ報ゼンコトヲ堅ク誓フモノナリ。ト宣言ニ謳ヒ居レリ。敵ニ損
 害ヲ與ヘンガ爲ニハ同機關ハ如何ナル手段ヲモ採リ得、又敵ノ生死ヲ判決スル獨自ノ裁判權ヲ有
 ス。而シテ其ノ使命ハ獨逸國民ノ自由ヲ熱望スル意思ト其ノ不屈ノ獨立ノ榮譽ヨリ出デ來タルモノナ
 リ。敵ニシテ、若シ我ヲ與シ易シト爲シ、羅馬尼、勃牙利若クハ芬蘭國民ト同ジク獨逸國民ヲ奴隸
 化シ、西比利亞ノ「ツンドラ」乃至英佛ノ嶺山ニ驅立テ得ベシト考ヘンカ、敵ハ、獨軍ガ熾烈ナル戰
 闘ノ後退キタル獨逸領内ニ於テモ、彼等ノ怖ルベキ敵タル所謂「ゲリラ」分子起テテ戰ヲ續クル事ヲ知
 ラシメラルベシ。憎惡ト復讐ハ吾人ノ合言葉ナリ。

六、桑 港 會 議

(一) 蘇聯ノ平和機構總會ノ表決權問題

(1) 三月二十九日、米國白聖館ハ、「ヤルタ」會談ノ際、蘇聯側ハ、新平和機構總會ニ於ケル同國ノ
 表決權ヲ、白露及「ウクライナ」兩共和國ノ表決權ヲ合メ、三票トスベキヲ要求シ、米英側ハ桑港
 會議ニ於テ右要求ヲ支持スベキヲ約諾セル旨及右蘇側要求ガ承認セララルトキハ米同様ニ三
 票ノ表決權ヲ要求スベキヲ留保セル旨發表セリ。右ハ政界ニ多大ノ反響ヲ惹起シ、「ヴァンデンバ
 ーグ」上院議員ヲ始メ同會議米代表數名ハ、英帝國ニ六票、蘇聯ニ三票ヲ認メテ米ノミガ一票ニ甘
 ンジ得ザルノミナラズ、假令米ガ三票ヲ得ルトスルモ猶不公平ナル位ナリト反對シ、新聞ノ一部
 ハ、蘇側要求ハ拒否スベキモノナリトシ、之ガ爲政府ハ英國ト協議スベシト論ジ、特ニ反蘇的ナ
 ル孤立派新聞「シカゴ・トリビュン」ノ社長「マコーミック」ハ、同紙社説(三十日)ニ於テ、「蘇聯
 ハ波蘭、羅馬尼、勃牙利、洪牙利、「ユーゴスラヴィア」及芬蘭ノ表決權ヲモ左右スベキヲ以テ、
 右三票ヲ併センカ、英帝國ノ六票、米國ノ三票ニ比シ、實ニ九票ヲ有スルニ至ルベシ」ト論難セ
 リ。右ノ外、一般ニ、政府ガ「ヤルタ」ニ於テ斯ル約束ヲ爲シツツ當時直チニ發表セザリシコトヲ
 責ムルト共ニ、斯ル約束ノ存在ハ、其他ニ猶秘密協定ノ存在スルヲ疑ハシムルモノナリトノ議論モ
 唱ヘラルルニ至リタルヲ以テ、「ステテニアス」國務長官ハ、三十日、記者會見ニ於テ、「ヤルタ」
 ニ於テハ平和機構内ノ表決權ニ關スルモノハ別トシ、秘密協定締結セラレタルコトナシト言明ス
 ルト共ニ、(イ)蘇側ハ「ヤルタ」ニ於テ、白露及「ウクライナ」兩共和國ヲ平和機構ノ原參加國トス

ベキヲ提言セルモノニシテ、米側ハ兩國ノ今次大戦ニ於ケル忍耐ト寄與ニ鑑ミ右提言ヲ桑港會議ニ於テ支持スベキヲ約セル次第ナリ、但シ兩國ノ會議其ノモノニ對スル參加ニ關シテハ何等約定存セズト釋明シタル後、(ロ)「ローズヴェルト」大統領ハ、「ヤルタ」ニ於テ留保セル三票要求ヲ撤回シ、一票ヲ以テ足レリトスル旨米代表宛訓令セル旨ヲ發表スル所アリタリ。

(2) 「ローズヴェルト」ノ三票留保撤回ニ對スル上院側ノ反響ヲ窺フニ、右ハ「ダンバートン・オークス」案ノ國家主權平等ノ原則ニ寄與スル所多クナリ、斯テコソ米國ハ多クノ味方ヲ得ルニ至ルベシト之ヲ支持スルト共ニ、平和機構運用ノ實權ガ、總會ニ存セズシテ理事會ニ存スル以上、右ハ些シタル問題ニアラズト努メテ平靜ヲ裝ハントノ態度一般のナルヤニ認メラルルモ、其ノ背後ニ於テ蘇聯ノ要求ヲ論難スル態度モ明ニ看取セララル。言論界ニ於テモ、少數ノ孤立派の新聞ヲ除キ、「ローズヴェルト」ノ態度ヲ支持シ、問題ハ些シテ重視スルニ足ラズトノ論調ヲ示スモノ一般ナリ。例ヘバ紐育「ヘラルド・トリビューン」(四日)ハ、蘇聯ガ構成十六共和國全部ノ爲ニ投票權ヲ要求スルナラバ格別、僅々一、二ノ共和國ノ投票權要求ハ、總會構成國ノ數十六乃至十七ニ微シ重要性ヲ有シ得ズト論ジ居レリ。

(3) 猶蘇聯邦ハ構成十六共和國ニ、外交權及軍事權ヲ附與(第二卷第五報三及二ノ(三)參照)シテ以來、各共和國外務人民委員ノ選出ニ伴ヒ、之ニ蘇聯邦外交官ノ資格ヲ與ヘ、露西亞及「ウクライナ」外務人民委員ハ大使、白露西亞ノ夫レハ一級公使、爾餘ノ共和國ノ夫レハ二級公使トシ、「チャーチル」等ノ如キ外國要人米英ノ際ノ招宴ニハ、之等ノ外務人民委員出席シ、特ニ露西亞、「ウクライナ」、白露西亞ノ三共和國外務人民委員ノ出席ヲ見ルヲ常トシ、ソノ地位向上ヲ印象ヅケルニ努メ居

レル由ナリ。

(二) 波蘭政權ノ參加

蘇聯政府ハ、「ワルゾ」波蘭政權ノ桑港會議參加ヲ米英兩國政府ニ要求セル處(第三二一―二頁參照)、兩國政府ハ、三月三十一日、蘇聯政府宛回答ヲ發シ、波蘭ニ「ヤルタ」決定ニ基ク眞ノ統一的政治樹立セラレザル限り、同國ノ桑港會議參加ヲ認メ得ズト拒絕スルト共ニ、國務省當局ヲシテ、四月一日、米國トシテハ桑港會議ニ代表ヲ派遣シ得ル如ク統一的政治樹立ニ成立スルヲ待望シ居ル旨言明セシメタリ。但シ、莫斯科三國委員會ニ於ケル交渉行儀ミニ微シ、同會議開催迄ニ斯ル政府ノ樹立セララルハ殆ンド不可能ト觀ラレ居レリ。

(4) 同會議米代表ノ一員タル上院外交委員長「コナリー」ハ、米側拒絕ノ態度ヲ稱揚セルガ、上院ニ於テハ、之ヲ以テ米國今後ノ對蘇政策ガ毅然タル態度トナル第一歩ヲ劃スルモノトナリ觀ル向抄ナカラズ、財政委員長「ジョージ」(上院戦後企劃委員長ヲ兼ス)ハ、「今次戰爭ニ於テ、米國ハ人及金ニ於テ莫大ナル犠牲ヲ拂ヒ、聯合國ニ對シテハ辨償ヲ求ムルコト無ク大ナル援助ヲ與ヘタリ。今ヤ吾人ガ、吾人ノ決定セル戦後ノ世界計畫ニ對シ、他國ガ充分ノ考慮ヲ拂フベキヲ率直ニ要求スル時機ハ到來シツツアリト云フベシ」ト述べタリ。新聞界ニ於テ、紐育「タイムズ」(二日)ハ、「荷モ「ヤルタ」協定ガ有效ナルモノナリトセバ、米英ガ「ルブリン」政權ノ要求ヲ拒否セルハ當然ナリ。「イーデン」英外相ノ言ヲ以テスレバ、波蘭國民ヲ眞ニ代表シ居ラザル同政權ノ要求ハ僭越ト言フ外ナク、之ヲ支持セル蘇聯政府ノ態度ハ不可解ナリト評スル外ナシ。乍併、波蘭ニ於ケル交渉既ニ一ヶ月半ヲ超ヘタルモ、猶新政府ノ成立ヲ見居ラザル理由明ニセラレタル曉ニ於

ヲ始メテ世界ハ現状ノ責任何人ニ在ルヤヲ判別シ得ベシト論ジテ政府ヲ支持シタルガ、華府「ポスト」(二日)ハ、「蘇聯ガ自己ノ擁立セル波蘭政權ヲ改組スルコトナクシテ桑港會議ニ參加セシメントスルハ驚クニ足ラズ。驚クベキハ米英ガ之ヲ拒絶セルコトニシテ他ニ合理的ナル出方モアリ得タルベシ。恨ムラクハ、米英ガ「ヤルタ」ニ於テ自己ノ立場ヲ明確ニセザリシコトナリ。三大國ハ妥協到達ニ欣喜セル餘リ、妥協ノ意味ヲ明確ナラシムル勞スラ之ヲ閉却ニ附セルモノナルベシ。平和ニ對スル國際協力ハ斯ノ如キ基礎ノ上ニハ建設スルヲ得ザルモノニシテ、假令永キ時間ヲ要シ困難ヲ經ザルベカラズトスルモ、平和機構ノ運用ニ付テハ、言葉ノ一致ニアラズ、確然且明確ナル思想ノ合致無カルベカラズ」ト皮肉リタリ。

(三) 開催延期説ノ否定

蘇聯側ノ總會投票權三票要求ト波蘭政權ノ桑港會議參加要求トハ、蘇側ノ同會議輕視ノ態度ヲ暗示ストセラレ、「モロトフ」外相ノ不參加ト相俟チ、近來頗ニ良好化セル米國ノ對蘇輿論ニ冷水ヲ浴ビセカゲタル貌トナリ、桑港會議ヲ控ヘ政府ヲ困惑ノ立場ニ陥レ居ルモノノ如シ。蘇聯側態度ハ一部ニ桑港會議延期説ヲ生ジタル處、「ステ、テニアス」國務長官ハ、三日、記者會見ニ於テ、「米國政府ノ信ズル所ニ依レバ、軍事的及政治的情勢ノ急歩調ハ、桑港會議ノ延期ヲ必要トスルドコロカ、逆ニ平和機構ノ急速樹立ヲ愈々必要ナラシムルモノナリ、加之、吾人ハ、會議延期ヲ可トスルガ如キ動キヲ如何ナル政府ニモ認メ得ズ」ト述べ、延期説ヲ否定シタリ。

(四) 「朝鮮」ノ參加要求

四月一日華府「ポスト」記者「ウイルフレッド・フライシャー」(元「ジャパン・アドヴァタイザー」主筆)ハ、

在重慶「朝鮮政府」ハ、米國政府ニ對シ桑港會議ニ代表派遣方許容アリタキ旨懇請セル旨ヲ報ズルト共ニ、眞ニ朝鮮民族ヲ代辨スル朝鮮政府ハ存在シ居ラザル現在、右要請ハ恐ラク容レラザルベシト論評セリ。他方在重慶「朝鮮臨時政府」情報相「デヴィッド・ウム」ハ、二日、「朝鮮政府」ハ、桑港會議ニ對スル招請ヲ受ケ居ラザルモ、若シ同會議ガ朝鮮ノ國際管理案ヲ決定スルガ如キコトアラバ、吾人ハ斯ル案ヲ以テ過去及現在ノ敵日本ニ代ル新ナル敵ト認ムベシ。吾人ノ要求スルハ即時無條件ノ朝鮮ノ獨立ナリ。朝鮮ノ國際管理案ハ第一在外同胞ヲ失望セシムベク、第二日本ノ軍籍ニ在ル半島同胞ヲシテ日本ノ爲ニ米英ト戦ハシムルコトナルベシト述べタリ。

(五) 印度ニ對スル常任理事國ノ地位賦與要求

「ロイター」新報ニ依レバ、前大戰後汎歐聯合ヲ唱ヘテ著聞セル「クイーン・カレルギ」伯(紐育大學講師)ハ、九日、「ステ、テニアス」國務長官ニ對シ、戦後世界各國ヲ、汎米「グループ」、英聯邦「グループ」、蘇聯邦「グループ」、歐洲「グループ」、極東「グループ」及中東「グループ」ノ六個ニ分チ、平和機構ノ常任理事國タルベキ米國、英國、「ソヴィエト」聯邦、佛國、支那ヲ前五「グループ」ノ首班トシ、中東「グループ」ニ於テハ、印度ノ政治的地理的重要性ニ鑑ミ、同國ヲ之ガ首班タラシムルヲ可トシ、從テ印度ニ常任理事國ノ地位ヲ與フベキ旨建言セル由ナリ。

七、蘇聯邦

(一) 日蘇中立條約廢棄通告論評及反響

(1) 蘇聯